

# ひづめだて

2013.7.20

第25号

赤石地区

ひづめ館懇話会

事務局 〒028-3309紫波町日詰駅前1-10-2赤石公民館内 tel 019-766-3999 会長 高橋敬明 tel 090-3125-3776

藤原清衡の四男清綱が志波郡比爪(現紫波町赤石)に本拠を構え、居住地の地名を名字とし「樋爪氏」を称した。奥六郡に同族を分置しなかった清衡にしては特別の配置である。

—岩手県市町村地域史シリーズ24「紫波町の歴史」河村迪雄著—

## 7月28日に樋爪館遺跡めぐり開催!

比爪に里帰りした古代蓮が824年の時を経て、今、咲き誇っています。地域の皆さん協力で整備された五郎沼一周コースを回り、往時の樋爪氏を偲ぶ「遺跡めぐり」を予定どおり開催します。

奥州藤原氏四代泰衡の首桶の中に、比爪の地の人が秘かに手向けたともいわれるハスの種子が、金色堂内での長い眠りから覚め、現代に甦りました。清楚で気品ただよう蓮の花を観賞し、世界文化遺産「平泉」の風を感じながら遺跡めぐりを楽しみましょう。

蛇の塚(経塚跡)では、夏至の日の出方向の山屋館経塚や春分・秋分の日没方向の新山寺経塚を実感できます。天候に恵まれれば、水面の向うに志波三山の山なみと岩手山を一望できます。紫波町民であれば、ぜひ一度は見てほしい風景です。

今回は、どなたでも参加しやすいよう1時間程度のコースに変更し、出発時刻を3回に分けましたので、ご都合のつく時刻に合わせて参加してください。なお、集合場所が五郎沼の古代蓮の池前になりますので、ご注意ねがいます。

☆ 出発時刻：午前9時、午前11時、午後1時の3回 各回の所要時間は1時間位

☆ コース：古代蓮の池→五郎沼説明板→山吹川→五郎沼南端→蛇の塚(経塚)跡→夜泣き石→五郎沼薬師神社→赤石小説説明板→大莊巖寺跡擬定地→箱清水石卒都婆群

☆ 参加料(資料代込み) 300円 会員は資料代のみ

## « « « 8~9月行事予定のお知らせ » » »

8月21日 (水曜日)	第44回月例懇話会	午後7時から午後9時まで 赤石公民館 発表者：佐藤雄一 テーマ：「赤石を興した人々」 発表者：石幡 信 テーマ：「信夫佐藤庄司」
9月18日 (日曜日)	第45回月例懇話会	午後7時から午後9時まで 赤石公民館 発表者：(未定) テーマ：(未定)

## -?-?-?-?-?-? - 樋爪氏 / 樋爪館 -?-?-?-?-?-?

Part 15

(12) 古代ハスのロマン

(前号からつづく) …… 間違いない、その種は樋爪氏の地に咲いたハスのものだったはずです。

よみがえった古代ハスは、中尊寺から五郎沼にだけ株分けされ、いわば里帰りをし、平成14年の5月に沼脇の休耕田に移植されました。古里に戻ったハスは強い繁殖力を發揮し、開花数を年々100輪単位で増やし、か

ってのように、見渡す限りに広がるハスを見ることが可能な状況になっています。

このエピソードは、悲惨な史実に咲いたロマンですが、たとえ泥地であっても清らかな花を咲かせるハスの姿そのものようです。

貴重な史跡である五郎沼は、桜の名所、白鳥の越冬地としても知られ、大勢の人たちが訪れる観光名所になっています。

(次号につづく)

● ● ● 比爪館跡の発掘調査 No.2 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

比爪館跡(ひづめだて)跡発掘調査報告書 紫波町教育委員会 昭和41年7月20日発行から

序

教育長加藤駿二

(抜粋)

昭和37年秋より38年春にかけて、山王海土地改良区の実施した水田区画整理事業で、排水路を掘っていた際、赤石小学校の西南約200mの位置から直径1m位の柱脚跡を発見したのである。これより端を発し、昭和40年3月、町文化財調査委員長須川幸一氏、同委員佐藤政雄氏、並びに本会事務局職員による予備調査の結果、更に数個の柱脚跡を発見した。そこで本町史編さんの史料とともに埋蔵文化財の発掘調査に着手した次第である。

1 調査期間

昭和40年11月18日より21日までの4日間

2 調査場所

東を赤石小学校、南と西を道路、北は岩館佐太郎氏宅地にかこまれた水田 572坪

3 調査員

岩手大学教授・県文化財専門委員 板橋 源  
紫波町文化財調査委員 佐藤政雄

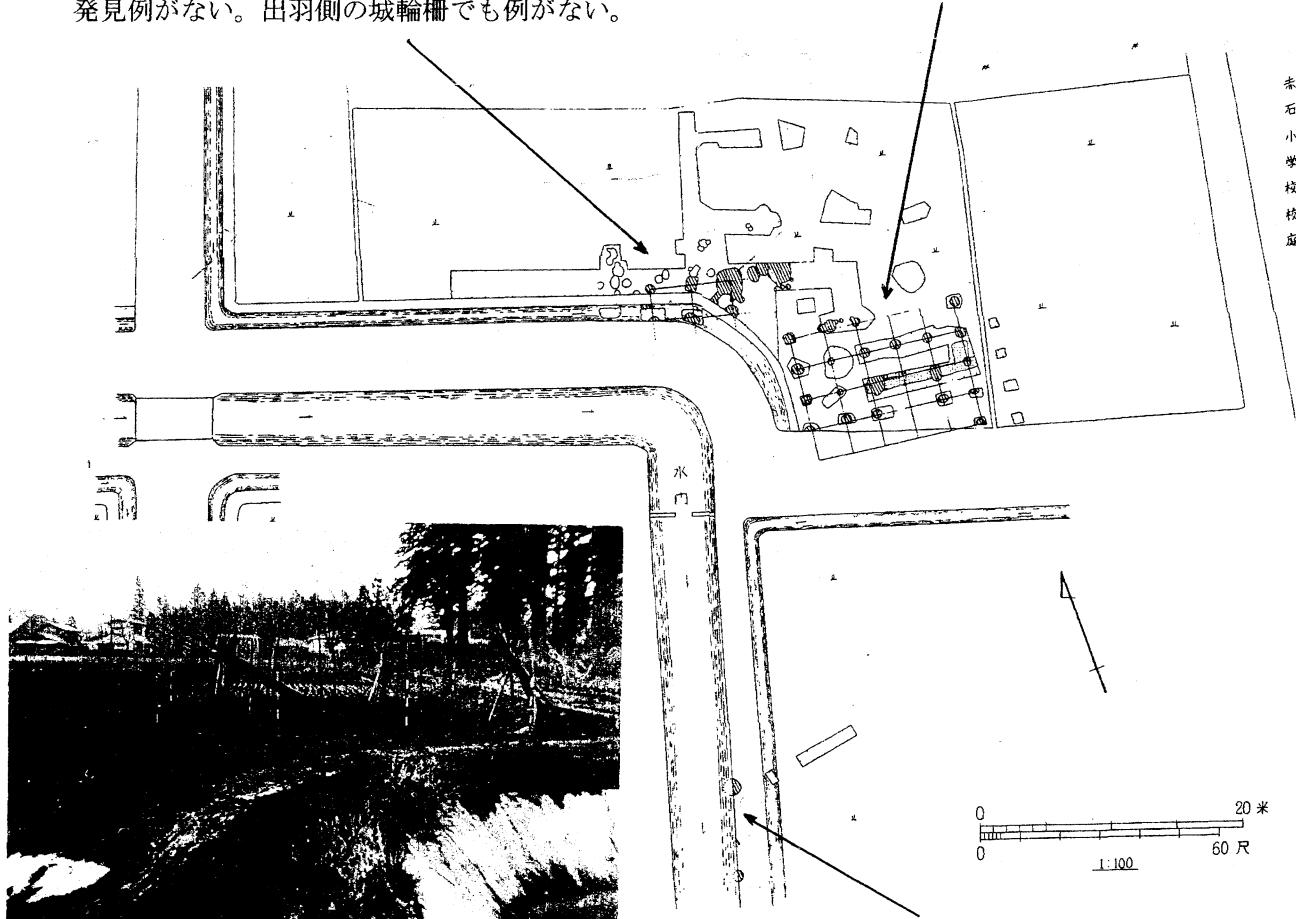
岩手大学文部技官 佐々木博康

【西建物跡】

- \* 柱脚痕：平面形は1辺1m前後の隅丸方形が主。(うち1個は円形に近い。)
- \* 規模：建物の北と西の限界は判明したが、南は道路のため調査できず。
- \* 方位：磁北に対し16度東偏。このような方位をもった建物は、胆沢・徳丹の両城跡では発見例がない。出羽側の城輪柵でも例がない。

【東建物跡】

- \* 柱脚痕：礎石や礎盤を使用しない掘立式。径は平均して70cm強、平面は円形に近い。
- \* 規模：東西42間で5間。間尺は平均8.4尺。南北は32尺の4間で間尺は8尺。
- \* 方位：磁北に対し6度強東偏。胆沢城や徳丹城で発見された掘立式柱脚建物と同一。



写真：西側から見た東建物跡、ポールと稻杭は柱脚痕の位置を示す。右下は水路(赤持川)。

昭和37年秋に出土し、発掘調査の端緒となった柱脚跡の位置。